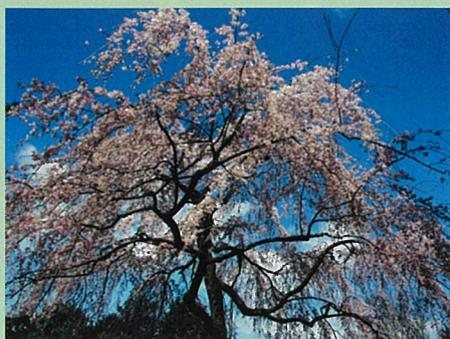


京都御所・御苑 歴史散策マップ



特定非営利活動法人
京都観光文化を考える会・都草

協力：環境省京都御苑管理事務所・一般財団法人 国民公園協会京都御苑

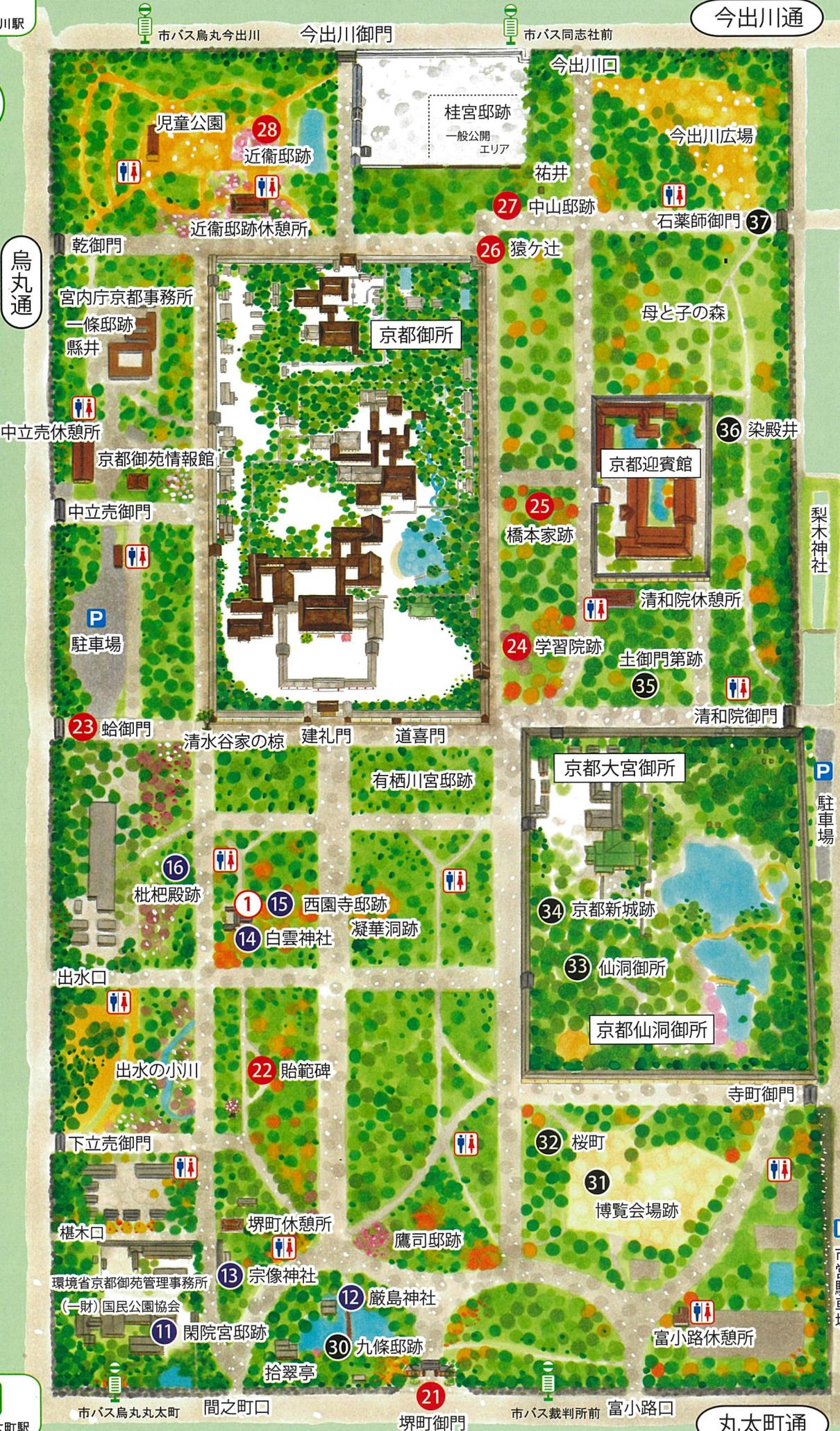
京都御苑

今出川通

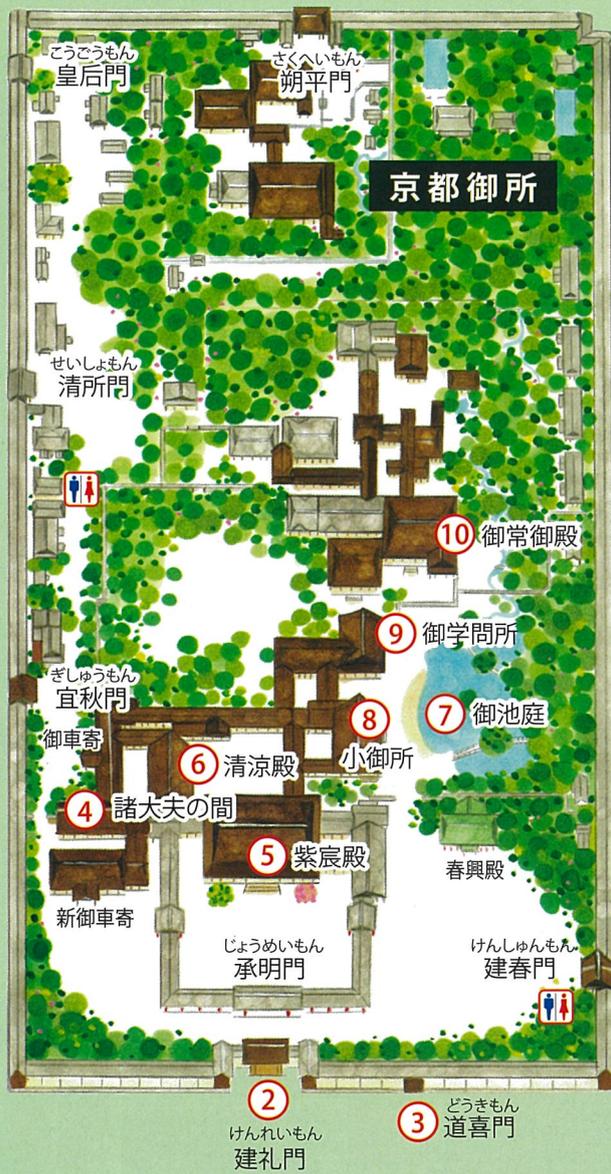


烏丸通

寺町通



丸太町通



① 西園寺邸跡



② 建礼門



③ 道喜門



④ しょうだいぶ
諸大夫の間



⑤ 紫宸殿



高御座



⑥ 清涼殿



⑦ 御池庭



⑧ 小御所



⑨ 御学問所



⑩ 御常御殿



あがたい
縣井

(画像提供: 宮内庁京都事務所)

A 京都御所歴史散策コース 90分

①	西園寺邸跡	明治時代、西園寺公望は文部大臣や2度の首相を務めました。この場所に、短い間でしたが私塾「立命館」を開きました。その名称は現在の立命館大学に受け継がれています。
②	建礼門	御所の正門で、檜皮葺き、切妻屋根の格調高い四脚門です。天皇陛下や国賓が来られた時などに開門されます。葵祭や時代祭の行列はこの門の前から出発します。
③	道喜門	川端道喜は、約300年間毎朝、朝廷に「お朝物」として塩餡でくるんだお餅を献上し続けました。いつとはなしに建礼門の東側の穴門は、道喜門と呼ばれるようになりました。
④	しょうだいぶ 諸大夫の間	参入者の控えの間。格式に応じて使用する部屋が異なります。手前から襖の絵柄によって「桜の間」「鶴の間」「虎の間」と呼ばれ、奥に行くほど格が高くなっています。
⑤	紫宸殿	御所の正殿で、高御座(たかみくら)が置かれています。安政2年(1855)に、寛政期造営(1790)を踏襲した宮殿が再建されました。明治天皇、大正天皇、昭和天皇の即位の礼はここで執り行われました。
⑥	清涼殿	当初は天皇の日常の御殿として使われ、政治や神事もここで行われました。昼御座(ひのおまし)と呼ばれる玉座があります。
⑦	御池庭	小堀遠州も作庭に関わったと伝わる池泉回遊式の庭。中央に神仙思想による三つの島が造られ、手前は玉石敷きの州浜となっています。
⑧	小御所	立太子の儀式や、江戸時代には諸大名の引見にも使われました。慶応3年(1867)、徳川慶喜の処遇、辞官納地を決定する小御所会議が行われた所として知られています。
⑨	御学問所	月次(つきなみ)の和歌御会を行うなど天皇の学問の場でした。慶応3年(1867)、この場所で、明治天皇より「王政復古の号令」が発せられ、新政府が成立しました。
⑩	御常御殿	豊臣秀吉が行った天正の造営を機に、天皇の日常のお住まいとして建てられ、内向きの儀式や対面の場としても使われました。

※追加説明史跡 (枇杷殿跡) (有栖川邸跡) (縣井)

京都御苑歴史散策コース

B 宮家・公家コース 60分

11	閑院宮邸跡	閑院宮家は、宝永7年(1710)に東山天皇の皇子、直仁(なおひと)親王を初代として創設されました。今上天皇に繋がる第119代光格天皇はこの閑院宮家のご出身です。
12	巖島神社	九條家の邸内社。宗像三女神と祇園女御を併せて祀り、池の弁天さんとして信仰を集めています。唐破風鳥居は、蚕ノ社・伴氏社の鳥居とともに京都三珍鳥居の一つとして有名です。
13	宗像神社	平安時代初期、藤原冬嗣(ふゆつぐ)が筑紫(現在の福岡県)から勧請した神社で、宗像三女神を祀っています。本殿の北側には樹齢600年といわれる楠の巨木があります。
14	白雲神社	西園寺家の旧鎮守社で、ご祭神は、宗像三女神の市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)です。社殿には、西園寺家に伝わった琵琶を弾く姿の妙音弁才天が祀られています。(国の重文・非公開)
15	西園寺邸跡	西園寺家は琵琶の宗家で、摂関家につぐ清華家という高い家格の公家です。家名は藤原公経(きんつね)が北山(現在の金閣寺のあたり)に建てた西園寺に由来します。
16	枇杷殿跡	平安時代初期に創建。藤原道長が所有していた時、一条、三条両天皇の里内裏となっています。紫式部はこの邸で女房として仕えていたといわれています。

C 幕末コース 90分

21	堺町御門	御苑で唯一南側にある門。文久3年(1863)にこの周辺で「8月18日の政変」と呼ばれる出来事がありました。葵祭や時代祭の行列はこの門を通り市中へ向かいます。
22	貽範碑	中川宮朝彦親王の業績を顕彰した碑。親王は日米修好通商条約の締結に反対し、幕府と対立。やがて、孝明天皇を補佐し、「8月18日の政変」で中心的な役割を果たしました。
23	蛤御門	この門は現在地より東寄り、南向きに建っていました。元治元年(1864)ここで、長州藩と会津・薩摩藩等が戦う「禁門の変」が勃発。京都は戦火で大きな被害を受けました。
24	学習院跡	学習院は光格天皇のご遺志を継いだ仁孝天皇により、公家の子弟の教育機関としてつくられました。明治になり東京に同名の学校が設立され、当時の扁額が明治天皇から下賜されました。
25	橋本家跡	橋本家は皇女和宮の生家。和宮は公武合体政策により、有栖川熾仁(たるひと)親王との婚約を解消され、徳川幕府第14代将軍家茂(いえもち)に嫁ぎました。
26	猿ヶ辻	御所の築地堀の東北角には御幣を担いだ木彫りの猿が鬼門除けとして置かれています。文久3年(1863)に尊王攘夷の急進派であった姉小路公知(きんとも)が襲われた「猿ヶ辻の変」の舞台です。
27	中山邸跡	権大納言中山忠能(ただやす)邸跡。木造平屋建て21坪程の産屋が創建当時のまま残されています。ここで誕生された孫の祐宮(さちのみや)は後に明治天皇となります。
28	近衛邸跡	近衛家は摂政・関白に任じられる五摂家の一つ。家名は、近衛大路(現在の出水通)に面していたことに由来します。邸の糸桜は昔から有名でした。幕末には篤姫もおとずれています。

※追加説明史跡 (鷹司邸跡) (西園寺邸跡) (清水谷家の椋) (凝華洞跡) (有栖川宮邸跡) (桂宮邸跡)

D 御苑東コース 90分

30	九條邸跡	摂政・関白に任じられる五摂家の一つ。数寄屋造書院風の茶室「拾翠亭」が残されています。明治期には九條池に高倉橋が架けられ、夏はサルスベリ、秋は櫨(ハゼ)の紅葉などが趣を添えます。
31 博覧会会場、32 桜町、33 仙洞御所、35 土御門第跡は、ほぼ 34 京都新城推定地範囲の中にありました。(P.2の概略図参照)		
31	博覧会会場跡	明治6年(1873)の第2回から御所、仙洞・大宮御所等で開催。同14年(1881)から同29年までは、御苑の東南部に建設された常設の会場が使われ、大いに賑わいました。
32	桜町	平安の歌人紀貫之の屋敷跡といわれています。広大な敷地には桜が多く植えられていました。源氏物語の「末摘花(すえつむはな)」「花散里(はなちるさと)」「空蝉(うつせみ)」の舞台に想定されています。
33	仙洞御所	後水尾天皇の譲位後の御所として寛永4年(1627)に造営され、上皇は約50年間過ごされました。安政の大火で焼失した後は、再建されずに庭園のみが残りました。
34	京都新城跡	慶長2年(1597)、豊臣秀吉は御所の近くに太閤御屋敷とも呼ばれる城郭風邸宅を造営しました。秀吉の死後には正室の北政所(高台院)が住みました。
35	土御門第跡	平安時代中期に摂政・太政大臣となった藤原道長の邸宅がありました。土御門大路(現上長者町通)に面していたところから「土御門第(殿)」と呼ばれました。
36	染殿井	平安時代初期に、藤原良房の屋敷「染殿第」がありました。良房の孫にあたる清和天皇の退位後の御所(後院)にもなっています。染殿井は祐井・懸井とともに「御所の三名水」の一つです。
37	石薬師御門	門前は真如堂の旧地で、その境内に石薬師が祀られていたのでこの名前があります。ここで、明治2年(1869)市民が皇后の東幸に反対、天皇の還幸を求めて請願デモを行ないました。

※追加説明史跡 (清和院御門) (饗宴場跡) (京都迎賓館) (画学校跡)

B 宮家・公家コース 60分



11 閑院宮邸跡



12 巖島神社



13 宗像神社



14 白雲神社

C 幕末コース 90分



21 堺町御門



23 蛤御門



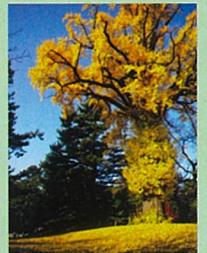
27 中山邸跡



26 猿ヶ辻



むく
清水谷家の椋



ぎょうかどう
凝華洞跡

(画像提供: 環境省京都御苑管理事務所)

D 御苑東コース 90分



30 九條邸跡



31 博覧会場跡

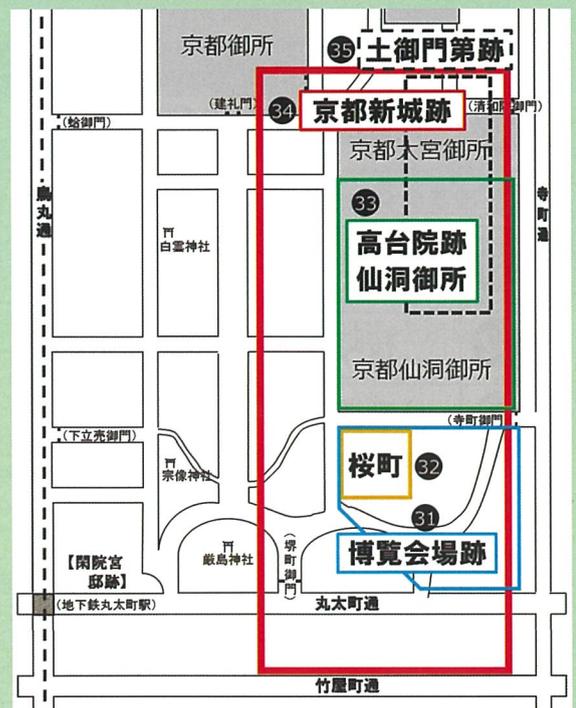


34 京都新城石垣発掘(2020年)
(画像提供: 京都市埋蔵文化財研究所)



36 染殿井

31 32 33 34 35 の推定地概略図



京都御所の歴史

延暦13年(794)、桓武天皇により遷都された平安京の内裏は、大内裏の中央東寄りにありました(現在の御所の西約1.8km)。内裏は度々焼失し、その間、天皇は貴族の屋敷などに移りました(里内裏)。元弘元年(1331)光厳天皇は、里内裏である土御門東洞院殿にて即位されます。

その後、ここに住まれた後小松天皇の時、明徳3年(1392)に南北朝の合一が成りこの里内裏が内裏として定まりました。当初は一町(約120m)四方の広さでしたが、時の権力者の支援を受け徐々に拡大し、徳川政権の時に現在の広さ(約11万㎡)になりました。内裏はその後も火災に遭い、天明8年(1788)の大火の後には、平安時代の様式に基づいて再建されました。現在の建物は、その時の建築形式を引き継ぎ、安政2年(1855)に造営されたものです。

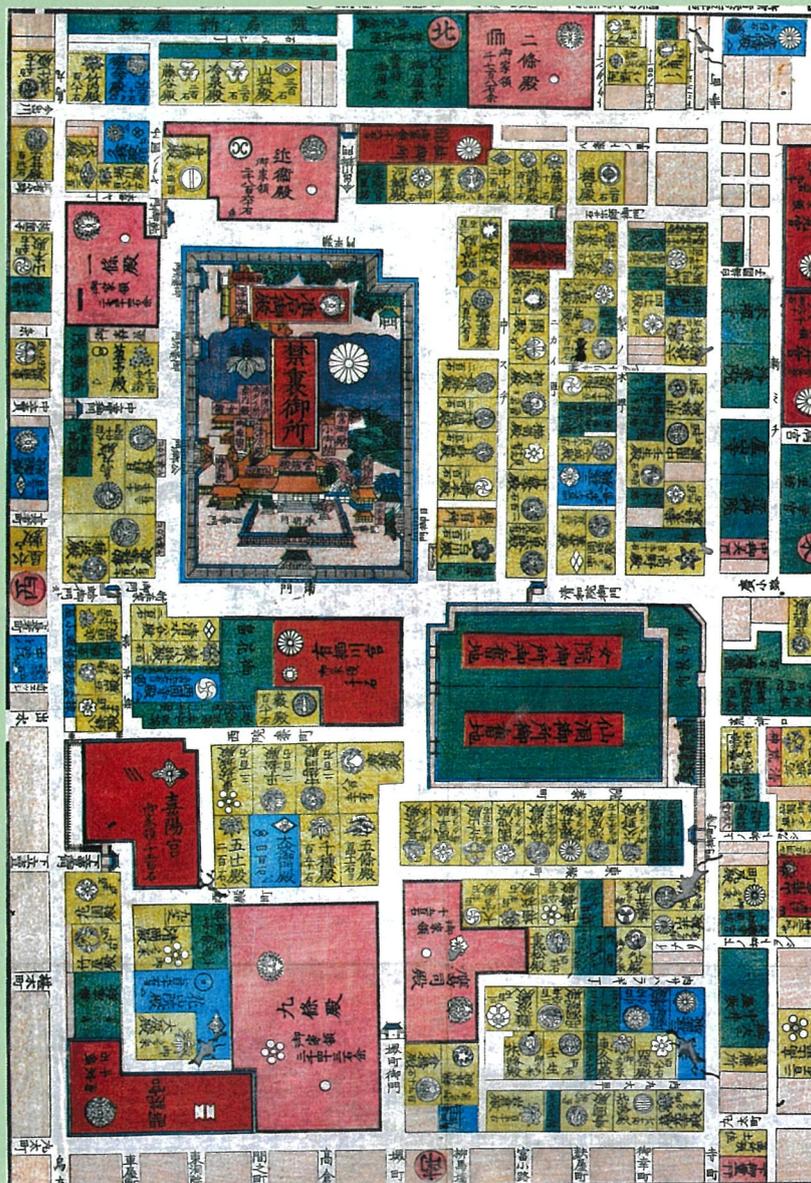
京都御苑の歴史

現在の京都御苑一帯には、平安時代から貴族の邸などがありました。14世紀末以降は、土御門東洞院内裏を中心に公家が集住するようになり、幕末にはおよそ200軒もの宮家・公家・寺院の里坊などが建ち並ぶ公家町が形成されていました。

明治2年(1869)の東京遷都後、大内保存事業(明治10年~16年)により建物の多くが移転・撤去されました。その後に皇室苑地として整備されたのが現在の国民公園京都御苑の始まりです。

京都御苑に残る公家町跡は、貴重な歴史の面影を残しており、現在も保護、継承されています。

幕末の御所と、周辺の公家町



文久改正 内裏御絵図 所蔵(京都市歴史資料館)

ご案内

京都御所・御苑歴史散策ガイドツアー



日時 : 毎週日曜日 午前9時50分集合(午前10時スタート) 雨天決行

集合場所 : 閑院宮邸跡、門の前付近(京都御苑南西)

ガイド料 : 無料

予約 : 不要。但し、団体(10名以上)および上記日時以外のご案内につきましては、2週間前までに都草事務所へご相談下さい。

交通機関 : 京都市地下鉄丸太町駅1番出口 京都市バス烏丸丸太町

注意事項 : 以下の場合、予告なくガイドツアーを中止する場合があります。

緊急事態宣言、京都市内に特別警報・警報等が発令された場合(午前7時時点)。台風や猛暑が予測される場合。

企画・制作 : 特定非営利活動法人 京都観光文化を考える会・都草(京都御苑歴史研究会)

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入 京都府庁旧本館2階 TEL/FAX : (075) 451-8146

<https://www.miyakogusa.com> E-mail: info@miyakogusa.com

監修 : 井上満郎(京都市歴史資料館長) マップイラスト : ながた みどり

「令和2年度 上京区民まちづくり活動支援対象事業」 2023.8 改(5,000部)